

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年12月19日発行 No.26

『彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に乗った。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。』

(新約聖書 マタイによる福音書 第2章9～11節)

<高大連携の確かな繋がりを感じつつ…。学院クリスマス礼拝を神戸教区主座聖堂で挙行!!>

先週の水曜日には、学校法人八代学院に属している神戸国際大学、そして付属高校合同の「学院クリスマス礼拝」が、日本聖公会 神戸教区を中心とも言える主座聖堂神戸聖ミカエル教会で執り行われました!! また、この礼拝の中では、永遠勤続者表彰も併せて行われ、20年、または30年間、学院のために尊いご奉仕を続けてこられた計6名の方々に惜しみない拍手が贈られました!! 受賞された皆様、本当におめでとうございます!! 礼拝後の茶話会では、美味しいケーキとコーヒーなどに舌鼓を打ちながら、受賞された方々の言葉や歌(?)に耳を傾け、日頃なかなか交流することの少ない付属高校の教職員の皆さんとも交流を深めることができました。ここ数年、参加者の減少が嘆かれてきた学院クリスマス礼拝でしたが、担当するチャペル委員会の中で話し合い、様々な工夫や改善を行った結果、前年度の参加者40名を大きく上回る60名の教職員でクリスマスをお祝いできました!! 本当に感謝です!! 少子化を迎え、私学にとっては厳しい時代となっている今だからこそ、高校・大学がしっかり連携し学院の絆を深めていく事が求められるように思います。ご出席、またご協力下さった皆様に心から感謝いたします!!



神戸教区を中心ミカエル大聖堂



超緊張しながらの奨励…汗



永年勤続表彰も行われました



授賞された6名の方々に拍手!!



滑らかなトークで司会する石原主務



和やかな茶話会の様子

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

12月12日(月) 前田 次郎(理事長) テマ:「歩きながらも祈りを捧げることにはできる」

この世界には農事暦やカレンダーなど様々な暦があり、キリスト教にも教会暦という暦が存在し、それによると今はクリスマスを目前に控え、自らを省みる「克己」の時である。英国の修道院時代、この時期はいつも以上に様々な祈りを捧げる期間となった。祈りの回数も1日7回に増え、その名目も娼婦のため、交通安全のため、泥酔者のためと多岐に亘った。なぜこのような祈りが修道院で行われるのか?自分を鍛えるためか?そうではなく、自分の内側で神が働きやすくなるためだ。神は、私たちに「起きよ」と声を掛けられ私たちの心の声に耳を傾けられる方である。自分の中にある様々な痛みや呻きをそのまま神に委ねていく、それが祈りの本質なのだ

12月13日(火) この日は、今年最後の音楽礼拝!! 聖歌隊が、クリスマスの聖歌でよく知られている「きよしこの夜」を奉唱してくれました!!

12月14日(水) 藤倉 哲哉(経済学部) テマ:「クリスマスですけど、何か…?」

少し前に「リア充」(彼氏や彼女がいてリアルな現実世界が充実している人のこと)という言葉が流行ったが、クリスマスを目前に控えて、みなさんはリア充だろうか? 自分の学生時代、クリスマスと言えば、クラブの先輩の家でパーティーをしたり、牧師をしていた父の司式するクリスマス礼拝に出席した事など、決して派手ではなかったが、それなりに楽しい思い出が残っている。楽しい印象のあるクリスマスだが、プレゼントをもらうだけでなく、誰に何をあげようかと相手の顔を想像したり、食事も美味しさやメニューよりも食べる相手とどんな会話を楽しむかに本質があるように思う。2016年のクリスマスが近い。有意義な時を過ごして欲しい。

12月8日(木) 前田 武彦(経済学部) テーマ:「コミュニケーションとは何か?」

卒業後の進路を考える時、社会人として働く上で最も求められるのが「コミュニケーション能力」だろう。そもそも「コミュニケーション」にはどんな役割があるのか? 私たちは、必ずどこかで誰かと繋がり、そこで意思を伝わっている。「こんにちは」の挨拶や、赤ちゃんの笑顔にも人間関係を維持するための力が潜んでいる。特定の外国語が話せないからと言ってコミュニケーションに苦手意識を持つ必要もない。私は全く言葉の通じないガイドと共にサハラ砂漠を横断した経験があるが、それこそ身振り手振りで、時には絵を描くなどして意思を伝える事ができた。大切なのは、相手の心を理解しようとする力、憶測する力、そして考える力だ。

12月9日(金) 下村 雄紀(学長) テーマ:「未来のための自分を創る」

「将来何になりたいか?」誰もが問われる問いであろう。私は十代後半で、周りが自分に押し付けてくる価値観や自分の人生に敷かれているルールから逃れるように海外の大学に進学した。そこでの生活は、日本での生活よりも遥かに厳しかった。その反面、他者ではなく自分で自分を「創造」できる、今までの自分を一度捨てて、新しい自分創りの時間を与えられたように思う。大学が皆さんに提供できるもの、それは「時間」だ。授業で提供される知識や情報は、未来の自分を構築するための道具となる。そこに無駄なものは何一つない。自分を創る取り組みの基本は「愛」だ。自分を愛せない人は他人を本当に愛す事はできない。出来る限り素敵な自分を創造する事が、他者を幸せにする第一歩となる。



(文責:野間 光顕)